

手工刀矛劍盾

発行：「 Chernobyl Support Movement, Kyushu 」事務局

連絡先：北九州市小倉南区徳吉東 1-13-24

TEL・FAX 093-452-0665

No. 1 1

1992年 4月21日

ЖИТОМИРСЬКИЙ ***ВІСНИК***



Так називається японська громадська організація по наданню допомоги потерпілим від аварій на Чорнобильських АЕС. Її представники з благодійною метою не запрошенні японською обласної журналістської організації і редакції газети «Житомирський вісник» щойно побували в нашій області.

[Продолжение на 3-й стр.]

Фото С. ЛОСНICA.

□ バラルーシからの報告

「チェルノブイリ通信」No.11をお届けします。昨年8月より始めたチェルノブイリ支援第三次募金もすでに400万円を越え、目標の650万円にもう一息というところまでできています。目標の650万円というのは、購入する医療機器・自動血球計測機（血液中の赤血球、白血球などの8項目を高精度で同時測定し、白血病などの早期発見に威力を発揮します。価格90万円。）・血液分析器（血液分析で肝機能、腎機能、循環器機能などを検査することができます。価格200万円。）・超音波診断装置（エコーカメラのことです。臨床診断ではかかせない機器で、甲状腺の検査には必要なもので移動できるポータブルタイプのものです。価格360万円。）を購入するための金額です。

これらの機器が、白血病や甲状腺ガンの早期発見におおいに役立ちます。

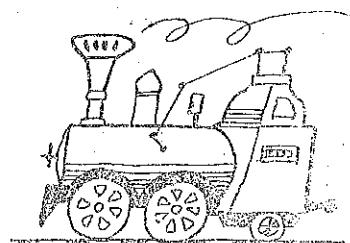
私たちが昨年6月、ウクライナ、バラルーシ（旧白ロシア）を訪れたとき、医療の現状についていろいろと見てきました。そして検査機器が足りないために診断が遅れ、治療の術もなく急性白血病で死亡した子供やエコーカメラがないために、ガンでもないのに喉を切開してしまった子供の話など、厳しい現状がそこにありました。「100万本の注射器よりも一台の機械が欲しい」というジトミール州立子供総合病院での言葉が医療の現状そのものなのです。

あらゆる面で統計を取るのが難しい国

ですが、事故後ウクライナで20人、バラルーシで30人の甲状腺ガンが発見され、手術をしていました。もちろん子供だけです。この数字はこれからますます増えていくだろうと言われていましたが、昨年一年だけで倍近くまで増えたことが明らかにされました。「ウクライナ、バラルーシで昨年一年間で88人の甲状腺ガンの発生」という、それはほんの小さな囲み記事でしたが、一日も早く医療機器を送りたいという思いを強くするには十分でした

そんなとき、バラルーシからFAXが入りました。「5月にミンスクでチェルノブイリ関係の国際セミナーを開くので支援運動・九州も招待したい」という内容です。この招待に「支援運動・九州」としてどう応えるか、ということで事務局で検討しました。そして、医療機器・医薬品を持っていくのであれば、誰かがついていき、手渡すしか無事に届けることはできないだろうし、そうであるなら、相手が招待してくれるというときに持っていくのが一番いいのではないか、ということになりました。幸い、募金の方も目標額まで今一歩というところまで来ており、日程の都合がつけばセミナーに合わせて医療機器をもっていこうということになりました。

そこで問題です。早急に第二次調査団組織することになりました。



□ 第二次調査団を派遣します。

現在、セミナーの具体的な内容と日程について問い合わせをしているところですが、あまり時間的余裕はないようです。今回の訪問先はベラルーシ。受け入れ窓口は切尔ノブイリ同盟ベラルーシということになります。

今回の目的は医療機器・医薬品を届けることですから、欲張った行程は立てずに、ベラルーシでの調査活動ということにしたいと思います。まず、ミンスクでの国際セミナーに参加した後、再度、モギリヨフ、スラブゴルドとベラルーシの南の方を訪ね、いまだに移住できずに高汚染地に住み続けている人々のようすを調べてみてはと思っています。

期間は約一週間で、派遣メンバーは前回と同様に同行の医師も含め4~5人程度を考えています。

ただ、ミンスクからの要望としては、「九州」以外に協力してくれそうな団体をいくつか紹介してほしいという事なので、多少増えるかもしれません。私たちとしても、どこか他の団体が一緒にいてくれたほうが助かるところもありますので、ぜひそうなるように努力したいとは思いますが。

渡航費用については前回同様、個々人で負担するということになります。ただし、今回は招待ということになりますので、基本的には往復の旅費だけを準備すればすみます。一人約20万円程度になるでしょうか。

今週中には詳しい日程などの返事が帰

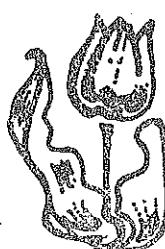
つてくると思いますので、第二次調査団に参加希望の方は私の方まで連絡してください。また、パスポートを取るのに2週間はかかりますので、もってない人はまずパスポートを取り、5月の後半にまとまった休みが取れるよう準備をしてください。

◆ 今回持っていく支援物資

●自動血球計測機、●血液分析器、●超音波診断装置、●試薬、制癌剤などの医薬品、●ビタミン剤、●放射能測定器などです。あと一ヶ月の間に集まつた募金額によって取捨選択されます。第三次募金最後の踏張りをよろしくお願ひします。

その他の支援物資について今回特別に集める予定はありませんが、折紙、折り鶴等については歓迎します。ミンスクの小児血液病センターに入院している子供たちに贈りたいと思います。

また、好調な売り上げを伸ばしている「切尔ノブイリ支援コーヒー」(無農薬・有機栽培、200gで700円)も引き続きよろしくお願ひします。それと、第一次医療調査団報告集「6年目の汚染地をたずねて」(一部500円)の精算がまだ終わっていないところも早急にお願いします。これらはすべて支援募金の方に入ることになっていますので、目標達成のカギを握っているといえます。よろしくお願ひします。



ベラルーシ社会的エコロジー同盟

“チェルノブイリ”

親愛なる友よ、

あなたの手紙と小包を受け取ることができたのは、残念ながらようやく三月の終わりになってでした。これより早くは返事ができませんでした。チェルノブイリ問題を解決するための資金を集めようというあなたの一連の仕事に対して、われわれベラルシア人は感謝します。このことはあなたの特徴をよく表していることと思います。

歌のはいったカセットにも感謝します。子供合唱団に渡すつもりです。彼らが気に入って、歌ってくれるといいと思います。

ベラルシアの状況は複雑です。1992年のチェルノブイリ計画を実現するために、われわれは、必要な資金のわずかに5分の1を持つのみです。一方、人々の間の健康の不調は、われわれがいちばん恐れていた方向へ向かっているようです。近い将来、公式情報を英語に訳して、FAXであなたのところに送りたいと思います。

われわれは、母と子供のサナトリウム(mother-and-child sanatorium)(病院)の建設にまだ着手できません。現在、計画はすでにたっているのです。あなたもご存知の通り、われわれの基金の大半の財政資産は、子供が海外で療養するのに充てられます。

現在われわれは、ミンスク国際子供医学－環境センター(the International

Children's Medico-Ecological Centre in Minsk)を計画中です。そのためにわれわれは、すべての資金を集め、外国の専門家を招待するつもりです。これは産科小児科研究機関及び先天性・遺伝性疾病の研究機関である第7子供病院の敷地の上に建てられる予定です。

こうしたセンターを建てるのは非常に重要なことです。というのは、可能な限り早い時期に診断をつけたり、放射能関連の病気を防ぎ、また欠陥のある子供の誕生を防ぐことで、初めてわれわれは社会を身体的、道徳的退廃から救うことができるからです。

金持ちの日本人が、東京や他の市から来た大金持ちは、チェルノブイリにあてられるはずの多額の人道主義的・財政的援助をゴルバチョフにやっています。しかし、援助はみなロシアに、モスクワに、モスクワにある町のオブニスクにいつてしましました。これは事実です。ベラルシアはなにも受け取っていません。深江さん、われわれは(政府も含め)、外国にいるわれわれの友人・パートナーのために、今年の五月の後半にミンスクで国際セミナーを開く予定です。あなたも招待したいと思います。後ほどご連絡します。誰か他に、われわれに手を貸して援助してくれるような、日本からあなたといつしょにセミナーに招待した方がいいような人がいたら、あなたの意見を聞きたく思います。あなたが推薦したい方(2、3人)の、招待するのに必要な情報を、ロシア語か英語で、FAXで送って下さい。よろしくお願ひします。

ごきげんよう！

あなたの忠実な、ワシリ・ヤコヴェンコ

Беларускі
Сацыяльна-Экалагічны
Саюз "Чарнобыль"

Рэспубліка Беларусь,

220048 Мінск, арк. Міаснікова 39

Телефон (0172) 20-39-04

Телефакс (0172) 23-90-14



Belarusian
Socio-Ecological
Union "Chernobyl"

Republic of Belarus

220048 Minsk Miasnikova street 39

Telephone (0172) 20-39-04

Fax (0172) 23-90-14

JAPAN

Fax: (093) 452-0665

Mr. Mamoru Fukae

39, Miasnikov Street

Minsk 220048

March 31, 1992

Dear Friend,

I am sorry that only at the end of March I've got your letter and parcel. I couldn't answer you earlier. Thank you for your kindness to us, Belarusians, for your work in the line of collecting means for solving our Chernobyl problem. It characterizes you in the best way possible.

I am also thankful to you for the cassette with a song. We'll give it to a children's choir. I hope they will like it and sing it.

The situation in Belarus is complicated. To realize the Chernobyl program of 1992 we've got only one fifth of the necessary means. Meanwhile health disorders in the population confirm our worst suppositions. In the near future we'll try to translate into English the official information and send it to you by fax.

We couldn't start the building of mother-and-child sanatorium (hospital) yet. Its project is being worked out at present. As you know, most of the financial means of our funds goes for the sanitation of our children abroad.

At present we try to set up the International Children's Medico-Ecological Centre in Minsk for which purpose we'll cooperate all the means and invite foreign specialists. It'll be set up on the basis of Children's Clinic No.7, the research Institute of maternity and child protection as well as the research Institute of inherent and hereditary diseases.

It's very important for us to establish such a Centre because only with the help of diagnosing at the earliest possible stage and preventing radiation-related illnesses as well as preventing

the birth of defective children we can save the society from physical and moral degradation.

The wealthy Japanese, millionaires from Tokyo and other cities gave Gorbachov much humanitarian and financial help that was supposed for Chernobyl but all the help went to Russia, to Moscow, to Obninsk, a town at Moscow. Such are the facts. Belarus got nothing of it.

Mr. Fukae, we (together with the Government) are going to hold an international seminar for our friends and partners abroad, which is likely to take place in the second half of May this year in Minrk. We are going to invite you too. Well... about it later. We'd like to know your opinion whom else from Japan we should invite together with you to the seminar out of those people who could render us assistance and give help. Send us, please, by fax the information in Russian or English about you those whom you will recommend (2 - 3 people) necessary for the invitation.

I wish you all the best.

God bless you!

Yours truly,
Vasil Yakovenko

切尔诺布利同盟バラルーシから送
ってきたFAXです。翻訳した文章は前
のページに載っています。

表紙の写真は昨年六月、ジトミール市を離れる前に取った写真です。ビースニック新聞の表紙を飾りました。タイトルは「チェルノブイリ・九州」です。

裏表紙はペラルーシあての返事です。
福岡の菊川さんにロシア語に翻訳しても
らい送っています。

Chernobyl Support Calendar

出来上がりました。

昨年に引き続き4月から始まる「チエルノブイリ支援カレンダー」が出来上りました。昨年よりたくさんの絵が送られてきました。売り上げは医療援助の募金にあてられます。1部500円

申し込みは福岡の出水さんまで。
(092-662-1613)

事務局でも取り扱います。よろしく

あすから巡回上映

「 Chernobyl Disaster Film Festival」

映画の一場面から

購入するのは、白血病の

早期発見に必要な自動血球
計測器（九十六万円）、血液
分析機（一百万円）、尿状

せん検査に必要な超音波診
断装置（三百六十万円）の
三点。目標額の六百五十万
円をまだ二百万円不足。

十一日午後二時北九州
市・戸畠市民会館を皮切り
に、十四日＝福岡市マ十八
日＝川内市マ十九日＝鹿児
島市マ二十日＝中津市マ
二十三日＝田代市マ二十五
日＝唐津市マ二十六日＝佐
賀市で上映される。参加費
(五百円)、北九州のみ千
円)の一部は、医療機器の
購入資金に充てられる。問
い合わせは北九州小倉南
区徳吉東1の1-3の156
ノブリ黙示録」が巡回上映
される。反原発運動を進め
る市民ネットワーク「チエ
ルノブリ支援運動・九
州」(事務局・北九州市、
福岡市立婦人会)による
「チエルノブリ支援運動・九
州」。入金によ
る協力を呼びかけている。
会費は一口千円。

上映される映画のチラシ

ソ連・チエルノブリ原発
事故の被災者援助活動を続
ける市民グループ「チエル
ノブリ支援運動・九州」

(北九州市、深江守事務局
長、約四百五十人)は境地
に医療機器を送るために四

月中旬からドキュメンタリ
ー映画「チエルノブリ黙
示録」上映会を九州各地で
開き、募金を呼びかける。

上映会の参加費は大人千
円、中高生五百円。十一日
の北九州市戸畠市民会館を
皮切りに、十二日が福岡市
中央区の福岡市立婦人会
館。大分市、佐賀市など計
九都市で開く。問い合わせ
は深江さん093(45
2)0665。

旧ソ連のチエルノブリ
原発事故で白血病などをか
かった子供たちの治療に、
医療機器を送る募金活動の
一環として十一日から九州
各地で巡回上映。「チエル
ノブリ黙示録」が巡回上映
される。反原発運動を進め
る市民ネットワーク「チエ
ルノブリ支援運動・九
州」(事務局・北九州市、
福岡市立婦人会)

深江守事務局長の主催。
深江さんは昨年六月、
チエルノブリのあるウク
ライナと、被害が大きかつ
たベラルーシ(旧ロシア)
の児童病院などを訪問。診
断用の機材がなく、甲状腺
嚢腫の寄贈を約束した。

深江さんは昨年六月、
チエルノブリのあるウク
ライナと、被害が大きかつ
たベラルーシ(旧ロシア)
の児童病院などを訪問。診
断用の機材がなく、甲状腺
嚢腫の寄贈を約束した。

チエルノブリ支援運動・九
州

購入するのは、白血病の
早期発見に必要な自動血球
計測器（九十六万円）、血液
分析機（一百万円）、尿状
せん検査に必要な超音波診
断装置（三百六十万円）の
三点。目標額の六百五十万
円をまだ二百万円不足。

チエルノブリ支援運動・九
州

チエルノブリ支援運動・九
州

チエルノブリ支援運動・九
州

チエルノブリ支援運動・九
州

放射能被害の現況報告

医療支援の寄金呼びかけ



「 Chernobyl 黙示録」の 1 シーン

が最も深刻な方起きた
ウクライナ・ Chernobyl フィ
リ原発の「 Chernobyl 」
映画「 Chernobyl 」は、
録が十二日午後時から、
戸畠市民会館で上映され
る。古田団体「 Chernobyl 」
アリ支援運動。九州（深
江守事務局長など）が主催、
現地に医療機器を贈りため
の寄金も呼びかけている。
映画は一九九〇年（平成
二年）に作成された。

ウクライナ・ Chernobyl フィ
リ原発の「 Chernobyl 」
映画「 Chernobyl 」は、
録が十二日午後時から、
戸畠市民会館で上映され
る。古田団体「 Chernobyl 」
アリ支援運動。九州（深
江守事務局長など）が主催、
現地に医療機器を贈りため
の寄金も呼びかけている。
映画は一九九〇年（平成
二年）に作成された。

ウクライナ・ Chernobyl フィ
リ原発の「 Chernobyl 」
映画「 Chernobyl 」は、
録が十二日午後時から、
戸畠市民会館で上映され
る。古田団体「 Chernobyl 」
アリ支援運動。九州（深
江守事務局長など）が主催、
現地に医療機器を贈りため
の寄金も呼びかけている。
映画は一九九〇年（平成
二年）に作成された。

Chernobyl の代價 それは… 30万人の病人をもたらしたことである

コノバロフ氏による

…生物学博士・ジトミール…

環境汚染の概念は難しく、かつ幅が広い。我々の地域にある主要な成分は確かに放射能である。その上、汚染物、放射性物質、熱を発する環境等がある。全体的な成り行きは、それらが増加していくことである。

IAEA（国際原子力委員会）の専門家は、35個もの計画に称賛を与えている間、そのことは考慮に入れなかった。

Chernobyl の惨事以前、ウクライナの遺伝子は非常に多くの生物の中で破壊され、放射能（私はもう一度それを強調したい）が遺伝子の破壊をさらに強めた。それは盲目の産業化が病んだ自然に対しておこなった最も激しい一撃であった。

惨事以前に、自然は我々の助けを必要としていたのである。1960年代の間に、遺伝学者たちは環境汚染の影響の下で昆虫はその体の色を変えていることに気がついた。なぜなら、回復不可能なプロセスが昆虫の組織内で起こっていたのだ。これは昆虫の世界の中でのミクロ的な進化であると言われている。

それは30年前のことであった。現在はどうなったのであろうか。Chernobyl の惨事の後、私は数十人の犠牲者たちに会ったり、入院中の子供たちを訪問したり、あるいは農場に行ってみたりした。農場では異常に成長した植物の生い茂る草原のなかを、突然変異した動物が生まれていた。そして現在、退化が自然界だけでなく社会的な意味においても始まったということが私にとって明らかである。つまりそれはウクライナ地方の人々の退化を意味するのである。

私は何人も脅かしたくはない。しかし私たちにはそろそろ物事の本当の姿、具体的な数字や事実について知ってもいい頃であろう。我々の地域では、死亡率の方が出生率よりも高いのである。それはアパートの不足や若い夫婦の低収入のためではない。それが原因ならそれほど怖くはないのだ。もし生活状態が改善されれば、出産率も増加するであろうから。しかしそうではない。主な理由は生物学上有る。具体的な数字を取り上げてみると、かつてジトミール地方では若い夫婦の不妊率が10パーセントであったのが、今では15パーセント以上になっている。もうひとつ数字を出してみる。胎児の10~20パーセント以上が女性の子宮内で死亡している。子供の出産率の統計は恐ろしいくらいだ。子供の20パーセント近くが身体的に異常があつたり病的であつたりする。最新のデータによると、ウクライナ地方では不妊している夫婦の75パーセン

ト近くが身体的に異常が認められている。さらにマリン地方では、1989年に放射能に汚染されていないジトミール地方と比較したところ（放射能に関しては）異常が認められているのだが、92パーセントの新生児が異常であった。

だから妊娠していくプロセス全てが不安定なのである。新生児の病気についてであるが、今世紀の初めに新生児4パーセントが病気を持って生まれていたが、現在では10パーセント近くにもなっている。ウクライナ地方では15パーセント以上にものぼっている。そのことを考えてみたまえ！7人の子供たちがそれぞれ両手がなかつたり、心臓が弱かったり、新陳代謝が破壊されていたりするのである。

生まれながらにして病気を持って生まれた新生児の数は、男性の生殖器官の病気と同様に我々の地域では1985年から1990年までの間に二倍に増加した。このことは民族の退化を正確に特長づけるものである。さらに、ナロディッヂでは1986年に100人の女子が生まれたのに比して（105人などではなく）男子は62人しか生まれなかつた。これらの統計上の数字が標準化し始めたのは注目すべきことである。

成人に関してはどうだろうか。ジトミール地方の全てに住民のうちの4分の1が細菌に対する免疫が弱まっている。これらは放射能汚染の深刻な結果であり、かなり長期にわたって続くであろうと言われている。というのも自然界全てが回復可能な程変化しているからだ。

最近私の学生は、ひとつの茎に2つから5つの花をつけたタンポポを1時間のうちに見つけてくることがよくある。ほんの前までは、そういった変種を見つけるには1日以上もかかっていた。頭が2個ある牛や、足が8本ある馬など、突然変異した動物が今では以前にもましてより頻繁に生まれてくるようになった。我々の研究所ではこうした退化についての必要な情報を収集した。

こういった事実すべてはウクライナでの過去の生態系上の悲劇を確実に物語るものである。悲劇は起きていたのである。我々はその犠牲者である。我々は少なくともその悲劇を認識し、自発的ではなく、穏やかにかつ規則的に自らを救うように行動しなければならない。

まず第一に、我々はそれぞれの地域に、特にチェルノブイリ地域には一覧表を作らなければならない。それを作るのにお金をお出し惜しんではならない。これを作れば最も有害である硝酸カリと核酸とを明確に見つけ出すことができるであろう。科学的研究に基づいてこのことを注意深く行なえば、それぞれの地域での明白な行動計画を作るのでふさわしい研究方法が得られるであろう。そうすれば、人々は情報を恐れることなく迅速に行動するであろう。汚染のレベルを検討するには、塵、食料、大気汚染等あらゆる要因を比較せねばならない。人間の体内汚染は、中心となる基準として役に立つにちがいない。

あらゆる行動は次の3つに分けられる。

(1) 基本的な国家の計画

(2)慈善団体との協力体制

(3)我々自身の行動

国家の対策に関しては、新しい国家の計画にしては、完璧とは言えずまた科学的な性格もない。これではなんの役にも立たないではないか！今日我々の地域には、他のどんな所にもないような立派な医療設備が設置された。しかしながら、このような大変貴重な設備が、15パーセントくらいしか使われていないのである。海外で教育を受け、訓練された高度な技術を持つ専門家が不足しているのが問題である。毎年我々の地域は人々の病気と動物耕作という低い生産性のために200万ルーブル近くを費やしている。もうひとつ具体例を上げてみる。ナロディッヂでは汚染のレベルが15キューリー以上もある耕作禁止の土地でさえも種の植えつけが続けられている。人々はどこかで労働しなければならないという議論があるからだろう。それは排他的な社会であろう。人々の移住をするしかこんな社会を壊す方法はないのだが、その移住についても今では計画するにしても実現する見込みのない事柄なのである。事務が長引いているのである。遺伝学者として推測した後、私はやや否定的な結果を得た。もし完全移住に関する急進的な決定が、切尔ノブイリの事故直後に行なわれていれば、現在の30万人以上と未来の数世代の人々の健康が保たれていたであろう。これはひとつの過ちの代償であり、我々はその過ちを増加し続けるであろう。

もちろん、国家は主要な義務を果さなければならぬ。しかし、数々の慈善団体がその努力を人々の移住に集中させれば重要な役割を果たすことができる。このように公共の慈善基金は有効である。その基金は無党派の新聞 (Zhitomirsky Visnyk) の一部としてジトミールで活躍している。それは放射能汚染された地域から完全な場所への移住基金、と呼ばれている。2年間の間に我々は9つの大きな家族をなんとか移住させた。これはジャーナリストや公共の寄付金によって行なわれた。この仕事はいまも続けられている。もしも慈善事業がその仕事に集中すれば、多くの善をもたらすであろう。

第3のポイントは、我々自信によって 何をなすことができるのか私は皆さんに言いたいのです。それは主に我々の個人的な健康である。放射能に汚染された地域に住んでいる人々は酒もタバコもやめ、週に二度蒸し風呂に通い、南部ではなくほかの場所で休日を過ごさなければならない。もしも家の近くに井戸があれば毎年その井戸をきれいにしておかねばならない。すべての妊婦さんは胎児を検診してもらわなければならない。これらは必ずしも骨の折れる仕事ではない。我々はそれぞれの学校の授業で以上のことについて話さなければならない。しかし現在では、それがなされていないのである。

最後の点についてである。環境汚染の分野における専門家として、私は明確な科学的な予測が行なわれるべきであり、それが適切にそして注意深くなされなければならないということを強調したい。私は具体的な医学上の事実をもってこの必然性を擁護

したい。なくてはならない卵子はすべて子宮にいる時（女子の）胎児の中で形成される。医療設備の不足のため私たちは形成された卵子の中で起こったことが解らない。たとえ女子が健康であるからといって、その子供もまた健康であるということにはならない。そういうわけで、科学的な予測をすることが必要なのであり、人々を移住させることが必要なのである。

予測をしてみるとそれほど困難なことではない。（例えば我々の地域では70もの医学上の統計資料がコンスタントに集められている）、しかしコンピューターの分析的な方法では不完全にしか用いられない。私自身の予測によれば、放射能に汚染された地帯に住んでいる人々（男性）の15パーセントだけしか統計上では60～65歳の年齢に到達しないであろう。最も恐ろしいのは突然変異した遺伝子（いわゆる「壊れた」遺伝子）が次の世代の遺伝に浸透していくことである。だから病理は増加するであろう。これから40～60年のうちに、病理がその力の及ぶあらゆる所で出現し、大衆の退化がウクライナで始まるであろう。今、我々がそれを無視する時間が長ければ長いほど、それだけ一層この退化がもつと恐ろしいものとなるであろう。私は私の予測が誤りであることを期待している。お願いだから誤りであってもらいたい。

Chernobyl's Price Is 300,000 Ill People

By Vyacheslav KONOVALOV

Doctor of biology, professor, Zhitomir, Ukraine

me that the degeneration began and not only in the nature but in the social sense too: the degeneration of the Ukrainian people.

I don't want to frighten anyone. But it is high time for us to know about the real state of things, concrete figures and facts. The mortality is higher than birth-rate in our region. Not because of a lack of the flats and low earnings of young couples. It is not so terrible. If the living conditions improve the birth-rate will increase, also. But it won't. The main reason is biological.

Let's take concrete figures. The barrenness was at the rank of 10 per cent. In Zhitomir region the barrenness of young couples is more than 15 per cent. One more figure: more than 10-20 per cent of embryos die in the woman's womb. The statistics of a child-birth is terrifying. Nearly 20 per cent were broken, pathological. In the Ukraine update, nearly 7.5 per cent of barrenness are pathological, too. And in Malin district, which is abnormal (as regards radiation) comparing with non-contaminated districts of Zhitomir region in 1989, 92 per cent of child-birth were pathological.

映画「チェルノブイリ顯示録」上映会 日程

- 4月11日(土) 北九州市 午後2時～
主催 チェルノブイリ支援運動・北九州 (深江守)
北九州市小倉南区徳吉東1-13-24、093-452-0665
- 12日(日) 福岡市 午後1時30分～
主催 チェルノブイリ支援運動・福岡 (出水薰)
福岡市東区香椎5-3-28、092-662-1613
- 14日(火) 大分市
主催 グリーンコープ内 (小川恭子)
大分市猪野957-45、0975-27-2873
- 18日(土) 川内市 午後6時～
主催 川内つゆくさの会 (馬場園征子)
川内市青山町5626-4 0996-22-6930
- 19日(日) 鹿児島市 午後2時～
主催 チェルノブイリ支援運動・鹿児島 (宮路慶子)
鹿児島市下福元町745-1 0992-67-5744
- 22日(水) 中津市 午前10時、午後6時～
主催 草の根の会他 (須賀留美子)
中津市新博多町2 0979-22-0963
- 23日(木) 日田市 午前10時、午後6時～
主催 地球ファンクラブ他 (井倉順子)
日田市玉川3-660-12 0973-24-2771
- 25日(土) 唐津市 午後2時～
主催 しなやかし脱原発・からつ他 (渡辺 勝)
唐津市朝日町107-1-30 0955-73-6921
- 26日(日) 佐賀市 午後2時～
主催 グリーンコープ他 (下田照子)
佐賀市若宮3-5-9、0952-30-9693

Уважаемый господин.

Я получил письмо факсом от Вас. Я очень рад что Вы получили наше письмо. Я сразу говорил Вам, которые письма не надо.

В письме Вы написали о приглашении на международную конференцию. Мы хотим уточнить подробнее её время и содержание. Задавайт от этого мы послаем какого человека или какую организацию. Конечно с добровольцем будем участвовать на конференции.

Сейчас я же собираем предметы которые подготавливаете для конференции и пакетом.

Если у Вас есть нужные вещи, пакуйте их сразу. то мы стараемся послать эти вещи.

В ином случае сообщаем о аварии Ленинградской А.Э.С. говорили что А.Э.С. Балашев ССР остался опасной. Но ином случае тоже опасные.

Разные группы продолжают вымогать деньги у нас. А.Э.С. перестала для работы. Но многие люди задавали вопрос "Чернобыль". и не сообщают о Чернобыль. Поэтому мы очень хотим информации о Чернобыль от вас через факс. Пишите нам на английском или ином языках.

Просим Вам!

12/10/92

МАМОУ ФУКАЭ (Япония)
"Помощь Чернобылю. Красно"